

第1部

「安吾 風の館」見学・ ゆかりの地めぐり

さかぐち つな お
坂口 綱男(安吾 風の館 館長)

いわ た た か こ
岩田多佳子(風の館 学芸員)

第2部

講演会

「安吾と戦後」

——戦争・占領・戦後を彼はどう通行したか——

か と う の り ひ ろ
加藤 典洋(文芸評論家)

2015年10月17日(土)

第1部 13:00~14:30 第2部 15:00~17:00

会 場 第1部:安吾 風の館(新潟市中央区西大畑町5927-9)
第2部:新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス 9階講堂
(新潟市中央区上大川前通7番町1169番地)

参加費 無料(要申込み、1部のみ・2部のみも可)

定 員 第1部:30名 第2部:150名

主 催 坂口安吾生誕祭実行委員会
(新潟市、新潟市芸術文化振興財団、安吾の会、八吾の会、新津安吾の会、
安吾全集を親しむ会、松之山安吾の会、桐生安吾を語る会、
NPO法人文化現場、新潟日報社、BSN新潟放送、
ラジオチャット・エフエム新津)

お申し込み 往復はがきで申込み。応募多数の場合は抽選。代表者の郵便番号・住所・氏名・電話番号・希望人数(2名まで)・参加を希望する番号(①第1部・第2部両方、②第1部のみ、③第2部のみ)を記入し下記まで申込み。

〒951-8550(住所不要)新潟市文化政策課「安吾生誕祭係」
応募締切りは10月7日(水)必着。

お問い合わせ 坂口安吾生誕祭実行委員会事務局(新潟市文化政策課)
TEL 025-226-2563

坂口安吾 生誕祭 1906 2015

講演会「安吾と戦後」



坂口安吾 生誕祭 1906 ~ 2015

第1部

「安吾 風の館」見学・

ゆかりの地めぐり

坂口綱男(安吾風の館館長)

岩田多佳子(風の館学芸員)

第2部

講演会「安吾と戦後」

——戦争・占領・戦後を彼はどう通行したか

加藤典洋(文芸評論家)



■安吾 風の館
新潟市中央区西大畑町5927-9 ☎025-222-3062

坂口安吾にとって「セング」とは何だったのか

「戦後70年／安吾没後60年」の節目の年に、文芸評論家の加藤典洋氏が語ります。「戦後の日本人は、なぜ先の大戦の死者をうまく弔えないのか、なにゆえ今も、アジアへの謝罪をきちんと済ませられないのか」と問題提起した『敗戦後論』で、大いなる論議を巻き起こした加藤氏が、安吾の特殊性を通して、あらためて「戦後70年」の意味を私たちに問いかけます。

加藤典洋氏からのメッセージ

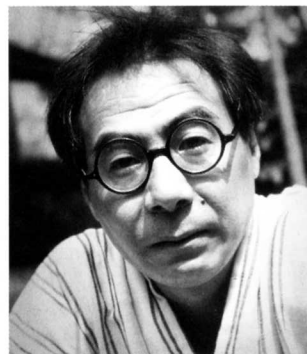
このところ再び「戦後」について一冊の本を準備していました。今年は戦後七〇年目ですが、坂口安吾にとって戦後は九年半でした。そのうち、約七年間は、占領下です。占領とは安吾にとってどういう経験だったのでしょうか。安吾は戦争をも特異な形で通過しています。そういうアングにとってセングとは何だったのか。その戦争の特異な通過の仕方に対応する、戦後の特異な通過の仕方に光をあててみたいと思います。



かとう のり ひろ
加藤典洋氏

文芸評論家、早稲田大学名誉教授。1948年山形生れ。東京大学文学部フランス文学科卒。国会図書館をへて明治学院大学、早稲田大学で教える。著書に『アメリカの影』『日本風景論』『言語表現法講義』『敗戦後論』『日本の無思想』『人類が永遠に続かないとしたら』など。新刊『戦後入門』。

加藤氏はかつて、「新潟の三角形」(『日本風景論』所収)で、坂口安吾、田中角栄、北一輝の足跡をたどり、その共通性(天皇)と「日本文化」の価値観から自由であったと、新潟の地域性をあぶり出した。その後も「戦後問題」や「歴史認識」をはじめ、文学、歴史、政治、思想のジャンルを超えて鋭い発言を続けている。



さか ぐち あん ご
坂口安吾

1906年10月20日新潟市西大畑町(新潟市中央区西大畑町)に、13人兄弟12番目、五男として生まれる。本名炳五。父は衆議院議員であり、新潟新聞社長、また漢詩人としても著名な仁一郎(号、五峰)、母はアサ。長兄献吉は新潟日報社長の、ちラジオ新潟(BSN新潟放送)を創立、社長。

新潟中学から東京豊山中学校へ転校。卒業後小学校代用教員を勤めたのち、東洋大学印度哲学倫理学科へ入学。大学在学中にアテネ・フランスへ入学し、フランス語、ラテン語を学ぶ。

1931年「風博士」「黒谷村」で文壇デビュー、1946年「墮落論」で敗戦に混迷する人々に大きな衝撃を与えた。銀座の酒場「ルパン」に集う太宰治、織田作之助らとともに無頼派と称され、新文学の旗手として一躍脚光をあびた。「日本文化私観」「白痴」「信長」「不連続殺人事件」「桜の森の満開の下」など、純文学をはじめ、評論・エッセイ、歴史小説、推理小説、説話物語、地理紀行など、幅広いジャンルに代表作をもつ、日本では稀有な作家。

1955年2月17日、群馬県桐生市にて48歳4ヶ月で死去。墓所は、新潟市秋葉区大安寺(旧・新津市大安寺)。